

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年1月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105057
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホームおあしす坂之上
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上1丁目47番22号 (電話) 099-284-6636
自己評価作成日	令和元年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者様と楽しく生活する事を大切にしています。おひとりおひとりに合わせた活動を充実させて、日々の生活の中で共に楽しみながら入居者様と心の通う介護に努めています。敷地内には菜園があり、入居者様と職員で苗の買物や植え付け、収穫をして調理をしてみんなで食べることで、季節の変化を感じて頂いています。ボランティアの方々との協力を得ながら行事や、季節ごとの外出を企画しています。敬老会やクリスマス会にはご家族の方々にも参加を呼びかけ、入居者様とご家族の方々が共に楽しんで頂けるように配慮しています。協力医療機関、訪問看護ステーションとの24時間の連携と協力体制のもと、入居者様の健康管理、救急時の対応をさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は協力医療機関との24時間医療連携体制が整っており、訪問看護ステーションとの連携も図り、緊急時の対応などに適切な医療が受けられるよう支援している。看取りの事例もある。
- ・町内会に加入し、資源回収等の地域行事に積極的に参加する一方、中学生の職場体験やボランティアの受け入れなども行っている。敷地内の菜園で苗の植え付けや収穫などに地域のボランティアの協力を得ている。地域住民から認知症についての相談に助言するなど、日常的に地域と交流している。
- ・管理者は職員を育てることに力を入れ、研修などへの出席を奨励し資格取得に向けた支援を行い、職員の働く意欲を引き出している。職員はチームワークが良く意欲的である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念を簡条書きにし、目に付きやすい場所に掲げ、意識付けしている。職員は意識して地域との関わりを大切にしている。	地域密着型サービスを踏まえた理念で、目に付きやすいところに掲示し、パンフレットにも掲載して意識づけしている。管理者と職員は理念を共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており資源回収にも協力したり、年に2回開催している防災訓練へ地域の方々の参加を呼びかけている。	町内会に加入し、回覧板で情報等を得、年2回の資源回収や中学生の職場体験学習の受け入れ、入居時に認知症の相談を受けたり、アドバイスするなど日常的に交流している。野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験学習の受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では介護活動の状況等を報告し意見や助言、要望等を出してもらい可能な限りその場で論議している。ご家族代表以外の方にも参加をお願いしている。	会議は定期的に行っている。事業所の状況や外部評価の報告などを行い、委員からも多くの助言や提案がある。そこでのヒヤリハットや事故の報告の開示に関するアドバイスについて、職員で話し合い、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	社会資源の活用や生活保護の受給者の処遇等の相談や対応を行い、運営推進会議等で長寿あんしんセンターともつながりを持ち、相談できるような関係づくりに取り組んでいる。	市担当者とは、電話や窓口に向向いて事業所の取り組み等を伝え、連携を深めている。年2回、介護相談員を受け入れている。市福祉課の担当者とも密に連絡し合っている。市主催の研修会に積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会設置し定期的に開催している。身体拘束に抵触しそうな行為がないか確認している。身体拘束についての内部研修を行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を基に2ヶ月に1回開催している。法人全体での研修を受けたり、職員会議でテーマを決めて勉強会を行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても日々確認し配慮している。日中の玄関の施錠はせず、職員間の連携で安全な暮らしを支援している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束や虐待についての研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修で権利擁護について学ぶ機会を設けている。現在、成年後見人制度を利用されている方はいないが今後いつでも活用できるように研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、時間をかけて丁寧に説明を行っている、重要事項説明書や契約書に基づき、ホームの介護に関する考え方や活動、入退居の条件も含めた事業所としての対応可能な範囲や医療連携体制、看取りの指針などを詳しく説明し、理解、納得、同意を得た上で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や家族会を開催し意見や要望をお聞きし、意見や苦情は管理者が責任を持って対応している。また、外部の相談窓口については契約時に説明し、重要事項説明書での掲示を行っている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、市相談員の助言も参考にして対応している。家族からは面会や家族会・電話・運営推進会議などが意見を聞く良い機会となっている。要望で年末年始の外出や長期の外泊にアドバイスして安心して過ごせるように反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議やそれぞれのユニットのカンファレンスの時に職員の意見、要望等を話し合う機会を設けている。また、日々のコミュニケーションも大切に職員同士が話し易い職場環境作り、関係作りに努めている。	管理者は職員とのコミュニケーションを図り、職員会議や各ユニットのカンファレンス等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。個人面談で意見を聞いてアドバイスもしている。職員の提案を検討して、職場環境の整備やケアの統一に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人役員と法人内の2つのグループホーム・4つの小規模多機能型ホームの管理者で運営会議月に1回開催している。それを通して代表者も、職場や職員の状況を把握し職場環境や条件の整備を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>行政主催の研修会や、グループホーム連絡協議会の研修や社会福祉協議会主催の研修会に参加できるようにしている。参加しやすいように勤務体制の調整を行っている。年間学習計画に基づいて内部研修も行っている。また、資格取得も奨励している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し研修会に参加している。医療生協主催の介護交流会や研修に参加し情報交換や交流を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用相談があった時は施設見学、面談などを行っている。電話での空室確認や入居に関する相談にも対応している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前にご家族と面談を行っている。要望や悩みを聞くことで生活状況を把握しグループホームとしてどのような対応ができるか検討している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用相談時に本人様やご家族の状況を把握し、利用開始までの一連の流れを説明している。空室がない場合や、相談内容がグループホームの役割と異なる場合は他の事業所のサービス利用の説明等を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯物を干したり、たたんだり、お盆拭き、庭掃除などを、楽しく自信を持って生活できるようにひとりひとりに役割を持っていただいている。本人様からの情報だけを引き出すのではなく職員も人となりを表出し関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望等をお伝えしご家族に対応して頂き、本人様の望む暮らしを支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々への訪問を支援している。お墓参りや思い出の場所への外出やドライブを行っている。	親戚や知人の面会の際には、一緒にお茶を飲んだりしている。電話や手紙の取次ぎなども行っており、墓参や苗ものや買い物などの支援をしている。家族の協力で外泊・外出・外食・墓参・理美容院利用などの際にも支援し、継続的關係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係性を把握し座席の配置を工夫する事で楽しく生活できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方や他の事業所に移られた方でもお電話での相談に応じるなど、関係が途切れないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的な聴き取りによる要望の把握に努めている。把握が困難な入居者様の場合はご家族からの情報を得て職員間での話し合いの中で介護に反映させている。	日々の関わりの中で、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、介護相談員の助言や家族とも相談して、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は本人様やご家族との面談で把握するようにしている。できるだけ本人様が生活されていた場所へ出向いて生活されていた環境を見るようにしている。入居後は、日常の会話やご家族の面会時にお話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活リズムを把握できるように職員全員で取り組み、日々の言動・行動や表情からの気付きを大切にしている。入居者様のできることを見出し、状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には普段の生活の中での意志や思いを傾聴し介護計画に反映させている。本人様の生活に対する意向を伺いカンファレンスでさらに検討し介護計画を作成している。	本人や家族の意向を確認し、主治医の意見も踏まえた担当者会議で、個々に応じた介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき日常の様子観察を行いながら水分量・食事・排泄など中心に把握し行動・言動にも着目しながら記録を残し情報を共有し周知している。適宜カンファレンスの中で介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	諸手続きの代行や、ご家族が同行できない時の受診の付添い等を行っている。季節に合わせた外出や、個別の外出も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内区長、民生委員、長寿あんしんセンター職員にも参加してもらい地域の行事の情報や助言をもらっている。また、防犯や防災、入居者の離脱などでは交番や消防署の協力をもらい支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時や、利用者の心身の状態に変化があった時はかかりつけ医に相談しご家族や入居者の意思を尊重して決定している。協力医療機関にかかりつけ医の変更を希望される場合には、前主治医からの情報提供や同意を得て、変更を行っている。また、利用者の健康状態をかかりつけ医と事業所が連絡・相談できる関係作りを行っている。	かかりつけ医は本人や家族の希望で協力医療機関が主治医となっている。協力医療機関からの4週間に1回の往診や訪問看護師の2週間に1回の健康管理などの連携も図り、緊急時の対応で適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職員は生活の中で気付いた変化を訪問看護師やホーム看護師に伝え相談している。入居者様それぞれが適切な受診や看護を受けられるように支援している。ホーム看護師は担当者会議に参加している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、主治医・看護職員・ご家族との連携を密に取り対応している。管理者や職員が面会に行き入院中も利用者が安心感を持ち早期に退院ができるように支援している。退院前はカンファレンスに参加し退院後も安心して生活できるようにケアについての助言を頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り介護を実践した際は勉強会を行い、日々の経過がわかるように、別の記録用紙を作成し活用する事で支援した。</p>	<p>「重度化した場合の対応に係る指針」を重要事項説明書に明記し同意書をもらっている。状況変化に伴い家族の意向を確認しながら、家族と方向性を共有できるように取り組んでいる。看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に内部研修で緊急時の対応方や蘇生法の研修を行っている。対処方法や連絡先を分かりやすい場所へ掲示している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難経路の確認・避難誘導の方法・消火器の取扱い・通報訓練等を実施している。自主訓練も実施している。避難経路や手順も掲示している。災害に備えて非常食も備蓄している。地域の協力体制については運営推進会議で町内区長や民生委員さんに協力をお願いし防災訓練前に地域の方々に参加を呼び掛けている。</p>	<p>年2回、消防署協力のもと、昼夜想定避難訓練を実施している。スプリンクラーや緊急通報装置も整備し、定期的に設備点検も実施している。地域とは、緊急通報装置に町内区長が登録されるなど地域との協力関係もできている。運営推進会議での意見や提案も避難訓練に活かしている。水・米・味噌汁・缶詰・カップ麺等を備蓄し、カセットコンロなどの器具も用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で言葉使い・態度・身だしなみについて特に重点を置く必要がある、と学び実践している。個人情報の取扱いについては内部研修等で個人情報保護について学び個人情報保護の徹底に努めている。	マニュアルに沿って定期的に勉強会を行い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないケアに取り組んでいる。採用時に個人情報保護に関する同意書をもっている。入浴やトイレ誘導などでは羞恥心に対する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活場面において今どこで過ごしたいのか意思確認をしてから誘導している。お誕生日にはリクエストされたメニューにしたリ外出を企画する際はどこに行きたいかなどを伺い入居者の希望を大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はあるがあくまでも全体的な目安としひとりひとりのペースや希望、その日の体調や気分などによって食事時間や入浴など可能な限り柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣や好みで自己表現ができるように支援している。必要に応じ声かけし身だしなみを整えている。訪問理美容の際はできるだけ本人様から希望を聞きながらカットやパーマなどをしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材の皮むきなどや下膳、食器洗いやお盆ふきなどして頂いている。献立を作る際は、食べたい物がないか伺い調理している食事中の食欲をそそるような声かけや雰囲気作りに努めている。	栄養士の助言を得ながら、嗜好に配慮し旬の食材で、個々に応じた食事形態を工夫している。食材の皮むきや下膳など職員と一緒にいたりしている。一人ひとりの誕生祝いや季節の行事食・外食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の管理栄養士の指導を受けバランスの取れた献立を作成し提供している。水分や食事の摂取量のチェック表を元にひとりひとりの摂取量を全職員が把握できるようにしている。水分摂取量の少ない入居者の方には個別に好きな飲み物を準備し提供している。本人様の状態に適したコップや器で提供し食事や水分が取れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけや介助を行い口腔内の保清に努めている。歯磨きやうがい困難な入居者の方には口腔ケア用のウェットティッシュで口腔内を清拭している。必要に応じて歯科受診を検討し、対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	随時、本人に適した下着やオムツ類の選択を行い、尿意・便意の維持を図っている。	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。必要に応じての声かけや見守り、確認することでトイレでの排泄や排泄の自立を支援している。尿意があり自らトイレへ行く人もいる。排泄用品は随時検討し、不快感を減らすように個々に合わせて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食材を取り入れたり水分をきちんととって頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調やその日の順番、気温などに配慮し臨機応変に対応することで入浴しやすい環境作りに努めている。ジェットバスを活用し楽しんで頂いている。	基本的には週2回、午前になっているが、本人の希望に応じて柔軟に対応している。脱衣室の温度調節も行い、入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む人にも声かけや時間調整など職員間で連携して、状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足浴をしたり、休むまえはパジャマに着替えていただくことで気持ちよく眠れるよう支援している。個々に応じた居室の明かりや環境などを整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が内服薬の内容を把握できるように専用のファイルを作成し薬の説明書を整理している。与薬時は必ず職員2名で名前の確認を行い直接手渡し、本人の前で名前と日付を確認している。毎食薬ごとに服薬内容を記載したカードを作成し随時、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の関心のあることに職員がき付き庭掃除や様々な家事などの場を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族の協力を得ながら外泊や外出ができるよう支援している。気候や入居者様の希望を考慮しながらホームでの行事や外出を企画している。	介護度の高い利用者が多いが、外出は年間計画を立ててメリハリのある支援を行っている。季節の花見や初詣・動物園・錦江湾公園・そうめん流し・外食等に出かけている。車椅子対応の公用車があり歩行困難な利用者も外出している。外泊・墓参りは家族の協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族にお願いしており必要時にはご家族の承諾をいただいて物品等購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望時にお電話をおかけして対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の徹底した清掃を行っている。季節に応じた花や飾り付けを行っている。	共用の空間は換気や採光に配慮し清潔である。ベランダや窓からは四季の移り変わりが感じられる。フロアには利用者と職員で作成した季節を大事にした飾りつけや行事の時の写真・花も飾っている。ソファで居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関脇のベンチから外を眺めたり、ベランダに出られたり思い思いに過ごせるように配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族の協力を頂きながら本人様の使い慣れた家具等を用意していただいたり、身体の状態にあわせた配置を行って居心地よくすごせるよう配慮している。</p>	<p>居室はエアコンやベッド・クローゼット・洗面台が備え付けである。テーブルや椅子・寝具・ソファ・仏壇・位牌・テレビ・時計・家族写真・衣装ケース・曆など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮してある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>わかりやすいように居室のドアの目印やトイレの表示をしている。廊下やトイレに手すりが設置されてる。玄関横で外履きに履き替えられるようにベンチを設置している。トイレは自動で点灯消灯する。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない